

出雲国風土記の世界

このテーマ展示では、8世紀初頭に朝廷への報告書として編纂された、口承文物「出雲国風土記」に基づいています。出雲地方の地理や資源、地元の伝説などが記されています。史料によると、風土記は国ごとに編纂されていたようですが、現存するのは出雲、播磨、常陸、豊後、肥前の5つの国の文章だけです。このうち、ほぼ完全な形で残っているのは出雲国風土記だけです。

風土記の編纂は、通常、朝廷から派遣された代表者が行っていました。しかし、出雲風土記は例外的に地方の領主が編纂を担当しました。この地域の専門知識を反映して、約800カ所の地名が記され、その多くの起源も含まれています。また、出雲で見られる様々な植物や動物、風景、建物、経済、地域の習慣なども紹介されており、今日、この情報は古代の日常生活を知る上で、貴重な情報となっています。

「出雲国風土記」には、地域の神話が散りばめられており、神話・伝説の回廊に隣接するシアターで上映されている短編映像「風土記神話」で、いくつかの物語が紹介されています。